女性の本と女性の為の情報をお知らせするウイメンズブック友の会会報

ウイメンズ ブックス

Women's Books

第15号
1985年
6月10日発行
(年会費 1,500円)

ウイメンズ ブックストア
発行所 有限会社 松香堂書店
602 京都市上京区下立売通西洞院西入る
電話 075-441-6905
振替貯金口座 京都8-7950

ウイメンズ ブック 目録 (15)

このリストの書籍を御希望の方は，同封の振替用紙の通信欄でお申込み下さい。書籍代は送料共でお振込み下さいますようお願い致します。
ご注文の本の定価の合計額に，右の表の送料を合せてお送り下さい。なお，お電話でのご注文も受け付けています。

1,000円以下の場合	300円
1,001円～ 3,000円の場合	400円
3,001円～ 5,000円の場合	500円
5,001円～10,000円の場合	600円
10,001円以上の場合	700円

(各項末尾の番号はウイメンズブックストアの書籍整理番号です)

世界の女性

〔アジア・アフリカ・ラテンアメリカ〕

「生育制度—中国の家族と社会」費 孝通 横山廣子訳
東京大学出版会 1985年3月 2800円
著者は世界で最もよく知られた中国の社会人類学者で，中国の家族のあり方，中国人の考え方を論じる。<生育制度>とは結婚し，子どもを育て，社会生活をおくり，次の世代へと伝えていく一連の社会活動のこと。訳者は新進の文化人類学研究者。〔1731〕

「中国ってこんな国—主婦先生がんばる」前山加奈子
日中出版 1984年 1300円
湖南省の大学で日本語教師として一年間暮らした著者の中国レポート。著者は中国婦人解放思想史の研究者で「中国女性解放の先駆者たち」を共同執筆。〔8072〕

「中国女性解放の先駆者たち」中国女性史研究会編
日中出版 1984年 1700円
文化大革命後，中国国内の近代史研究や中国共産党研究史の分野に，新しい史料が発掘公表されはじめたため，日本における近代中国女性史研究も活発になってきている。本著は最近の中国女性史研究の成果をまとめたもの。巻末には年表，中国女性解放のあゆみを掲載。〔1256〕

「中国女性史」 山川 麗 笠間書院 1977年 1000円
古代の女性，秦漢の女性，魏晋南北朝など古代史より近代革命と共に盛んになった婦人解放運動に至るまでの通史。〔1101〕

「中国女性史—太平天国から現代まで」小野和子
平凡社 1978年 1200円
中国の婦人解放はヨーロッパの市民的な婦人解放とは，対照的な農民革命にその原点がある。太平天国以後百年にわたる中国女性解放の歴史。〔1102〕

「中国の女たち」ジェリア・クリステヴァ 丸山 静訳
せりか書房 1981年 2000円
西欧の女クリステヴァは中国で何をみたか。自分とは異質の眼差しに出会い自らの女性観を根源的に問い直す。フランス哲学界で最も注目されている女性，クリステヴァの著作。〔0541〕

「キビとゴマ—中国女流文学選」加藤幸子・辻 康吾訳
研文出版 1985年4月 1700円
文革後の中国文壇で活躍する女性作家達。女性を主人公にした若手女性作家たちによる作品はみずみずしく描かれている。夏，児をおもう，愛この忘れがたきもの，讃歌，キビとゴマの5篇。〔8534〕

「人民の沈黙—わたしの中国記」松井やより
すずさわ書店 1980年 1800円
周恩来，毛沢東の死に始まる激動の時期に北京で生活したジャーナリストの体験的中国論。民衆に沈黙を強いる体制を問い，民主主義と人権を求めて闘う中国人との連帯を訴える。〔0539〕

「嫁してインドに生きる」タゴール暎子 筑摩書房
1984年 1400円
インド・ベンガル州屈指の名家タゴール家（1913年に東洋人としてはじめてノーベル賞を受賞した詩人ラビンドラナート・タゴールもこの一族）に嫁して25年。大家族制度，習慣，儀式などインド上流社会を描く。〔8111〕

「焼かれる花嫁―インドの結婚」
ジャミラ・ヴァルギーズ　鳥居千代香訳　三一書房
1984年　2200円

訳者は新進のインド研究家。膨大な持参金に泣くインドの花嫁，頻発する持参金殺人などに焦点をあて，インドの中・下階級に属する人々を通してインドの社会とそこに生きる女性の苛酷な現実をとらえる。〔8083〕

「女と男の経済学―暮らしとエロス」深江誠子
社会評論社　1985年3月　1600円

買売春観光を糸口に日本人の性感覚，性道徳を支える風土，婚姻制度を洗い直す。特に私たちの暮らしと第三世界の章では，ユニークな女の経済学が展開される。今までにはなかった視点で書かれた暮らしとエロスを結ぶ一読の価値ある好書。〔0758〕

「じゃぱゆきさん―アジアは女だ」山谷哲夫
情報センター出版局　1985年2月　1000円

著者は戦争と女とアジアを撮りつづけている映画人。東南アジアからの出稼ぎ女性を“じゃぱゆきさん”と名づけ，5年間にわたって追跡取材。アジアの中の南北格差の矛盾を一身に背負って“じゃぱゆきさん”は海を渡る。じゃぱゆきさんを送り出す国に共通していることは家族血縁関係の堅固さ―美徳ではあるが，反面，支配者にうまく利用されて，娘たちが身を売ることを黙認。アジアの構造的貧困と日本のアジアでは異例の豊かさの格差。ぜひ一読をおすすめする力作。〔8101〕

「女性解放とは何か―女たちの 団結は 強く 国境を 越える」　松井やより　未来社　1975年　1200円

著者は現在東南アジア地域の特派員として活躍するジャーナリスト。欧米のウーマン・リブに触発された日本のリブではあるが，日本の経済侵略の犠牲になっている他のアジア女性たちと闘いをつながなければならないとして，アジアの女性に著者は早くから視点を向けている。〔0428〕

「女たちのアジア」吉田ルイ子　旺文社(文庫)　1984年
480円

カスバの女　チャドルの女たち　インドの女たち　ベトナム孤児再訪　中国見たまま　など，写真とエッセイでつづる著者のアジア人としてのアイデンティティの旅。一番近い国韓国は著者にビザがおりなくて取材できなかったという。〔8531〕

「アジアと女性解放」アジアの女たちの会編

No. 7　1979.10「特集　女と国籍」　300円
男性優位の国籍法　沖縄からの報告―無国籍の子どもたち　入籍・国籍をめぐるこの10年

No. 9　1980.12「特集　第三世界の女と私たち」
以下　各400円
フィリピンのシスターたち　香港の女子労働者　米国の日系三世女性　マニラ観光問題会議報告　〔5035〕

No. 11　1981.12「特集　暮らしの中のアジア」
日本からアジアへ輸出される有害・不要商品（味の素・化粧品・粉ミルク・避妊薬）　アジアから日本へ奪い尽さんばかりに輸入（魚・エビ・バナナ・紙）　多国籍企業を批判する第三世界の消費者運動　〔5037〕

No. 12　1982.7「特集　戦争と私たちとアジア」
原発は核兵器になる　『靖国』を拒む　どこまで進む日本の経済侵略　〔5136〕

No. 13　1983.1「特集　8・15とアジア」
『大東亜共栄圏』とアジア　アジアから見た8・15　教科書から侵略の文字が……　〔5189〕

No. 14　1983.8「特集　侵略と性」
基地買春―沖縄・韓国・フィリピン・タイ　従軍慰安婦　輸入される女性たち　バングラデシュ売春レポート　〔5251〕

No. 15　1984.9「特集　全斗煥の訪日を許さない」
朝鮮問題と日本問題　女と国籍Ⅱ―改正された国籍法　インドシナ三国の女たち　〔5350〕

「エリサ出発」　Nh.ディニ　舟知　恵訳　1984年6月
段々社発行　星雲社発売　1500円

アジア女性作家秀作シリーズⅡ。1950年後半から60年初めのインドネシアを舞台に愛と国籍に悩む，混血エリサの生き方を描く。著者は1936年生まれ，フランス人外交官と結婚し国際的視野を通して，インドネシア語で書きつづける女性作家。〔8529〕

「サーラピーの咲く季節」スワンニー・スコンター
吉岡峯子訳　段々社発行　星雲社発売　1983年　1500円

現代アジアの女性作家秀作シリーズⅠ。著者はSEATO文学賞を受賞したタイの作家で，1984年不慮の死をとげた。本書はスワンニーの本邦初訳作品。タイの田舎を描いた自伝的エッセイ。〔8528〕

「シンガポーリアン・シンガポール」キャサリン・リム
幸節みゆき訳　段々社発行　星雲社発売　1984年11月
1500円

現代アジアの女性作家秀作シリーズⅢ。著者は1942年生まれのシンガポールで最も活躍中の中国系英語作家。〔8527〕

「女神の島より―ジャカルタ日本人学校女教師の体験的エッセイ」　江村　彩　地人館　1985年3月　1500円

日本企業が急激に進出する首都ジャカルタでは約900人の子供たちが学んでいる。文部省海外派遣教員としてジャカルタ日本人学校に3年間勤務した著者のみたインドネシアレポート。〔8532〕

「フィリピン・レポート」三好亜矢子　女子パウロ会
1982年　900円

国益優先の海外情報では伝わってこない隣国フィリピンの現状を，また“じゃぱゆきさん”“買春観光”をうみ出す飢えと貧困の問題を考える上で役立つレポート。フィリピン最大のスラムに著者は住み込み，この国の貧困を踏み台にした先進国日本の繁栄を告発。〔8031〕

「フィリピンの旅」　笹原恭子　すずさわ書店　1981年
1200円

9人で4畳半に寝る貧困のスラムは見すてられたままに，イメルダ夫人の虚栄心のためにマニラの都市美化計画はすすめられた。外国企業で働く女子労働者の実態は？巻末に戒厳令下のフィリピン共産党の報告集と新人民軍を訪れたレポートを掲載。〔0540〕

「住んでみたオーストラリア―理科教師の観察ノート」
中嶋洋子　サイマル出版会　1984年1月　1300円
夫（中嶋嶺雄東外大教授）の招聘にともない中・高生の子ども4人を連れてオーストラリアに一年間滞在した中学の理科教師のレポート。4人の子持ちの著者が未知の国オーストラリア事情をいきいきとレポート。学校・大陸の自然・アウトドア　ライフ・日豪関係などを語る。
〔8533〕

「女ひとりアフリカを行く」小木曽長子　大陸書房
1978年　980円
旅行社のツアーではない女のひとり旅のアフリカ一カ月間のレポート。ケニアのナイロビ周辺の中心部族キクユ族と共に暮らす。
〔8522〕

「アフリカ文学研究　第1号」アフリカ文学研究会編
1985年1月　1000円
アフリカ人作家研究，アフリカ社会，政治歴史状況など諸分野の研究誌。アフリカ人女性作家の問いかけるもの，アレックス・ダラとカラード社会，アフリカ映画祭の講演からなどを掲載。
〔7362〕

「異文化の女性たち」P・デザルマン　福井美津子訳
新評論　1983年　1500円
著者は西アフリカ・コートジボワールのリセの教授。1970年代世界的なウーマン・リブのうねりがアフリカにも押し寄せた。本書は古典的文献を中心にまとめられた女性学のテキストでアフリカに関する資料が豊富。アフリカの女性解放の現状を報告。
〔0776〕

「女性と社会変動―キブツの女たち」L・タイガー　J・シェファー　荒川・矢沢訳　思索社　1981年　4200円
男女平等を基盤にした共同社会キブツの女性の実態を三代にわたって調査研究した労作。子産み，子育ての再生産の問題をキブツもかかえている。男女分業の分極化がすすむキブツ育ちの第三世代。
〔0473〕

「住んでみたメキシコ―知るほどに不思議な国」
田辺厚子　サイマル出版会　1985年3月　1300円
著者はメキシコに住んで17年。国立大学で終身雇用契約の身分を与えられ日本の文化を講じている。メキシコ人に愛される日本人とはユーモアがあり，愛敬があり，ちょっと抜けたところもある人間くさい人とのこと。
〔8102〕

「サンディーノのこどもたち―私の見たニカラグア」
吉田ルイ子　大月書店　1985年3月　1500円
中米ニカラグアのフォト・ルポルタージュ。
〔8530〕

「グァテマラレポート」　井口直子　真珠社　1984年
1800円
夫がグァテマラの日本人学校長として赴任したのに伴って，共に教員として働きながら視たグァテマラとは？インディオの手織布を使った心のこもった装丁の美しい表紙の本。
〔8082〕

「ペルーからきた私の娘」　藤本和子　晶文社　1984年
980円
ユダヤ人の夫，日本人の妻，ペルーからきた赤ん坊。異なる三つの旅券をもった3人がアメリカの小さな町で家族として暮らしはじめた。著者は「聞書北米黒人女性　塩を食う女たち」をはじめアメリカの底辺の女の魂を掘りおこす作品を発表している。
〔9010〕

「ティナ・モドッティ―そのあえかなる生涯」
ミルドレッド・コンスタンチン　グループ・LAF訳
現代企画室　1985年2月　2800円
ティナ・モドッティ（1896～1942）イタリア生まれ。移住先のカリフォルニアでモデル・女優をしていたティナは1920年代革命後のメキシコ社会での生活で変貌。女性写真家として，いちずな生涯をとげたティナの生と死を描く。本号“あなたの情報・わたしの情報”をご参照下さい。
〔9637〕

〔アメリカ〕

「アメリカ女性学事情―レーガン政権下の福祉社会」
杉本貴代栄　有斐閣(選書)　1985年3月　1500円
アメリカ女性に関する最新情報。EAR廃棄とアメリカ・フェミニズム，ワーキング・ウーマンの素顔，子ども社会でなくなったアメリカ，アメリカの離婚と高齢化社会，アメリカ女性学の抱える課題などアメリカの家族問題，女性問題を生活者であり，研究者である著者が最新の情報を提供。
〔0755〕

「アメリカ子育て新事情―カリフォルニアの家族と学校」　関本紀美子　フレーベル館　1985年4月　980円
カリフォルニア大学バークレで家族とともに2年暮らした著者が，アメリカの個性ある子育てをレポート。手ぶらで学校へ，給食は食べたい人だけ，マイノリティ（少数派民族）のこと，子どもの自由を尊う車社会，障害児を普通学校へ，保育所が足りない，など興味深い内容。
〔2235〕

「アメリカの女子教育―実力派女性のバックグラウンド」　大柴　衛　有斐閣　1982年　1100円
アメリカの女子教育の歴史をたどり，アメリカの女性が自己解放，自己確立していく背景を語る。
〔0633〕

「アメリカン・ウーマン」　吉川裕子　講談社　1979年
420円
アメリカ女性は歴史上始まって以来の劇的な革命の中にいきている。混乱と迷いの中で人間として自立していくアメリカ女性の姿をとらえる。
〔0548〕

「アメリカの女たち―その愛と家庭と自立」中野英子
PHP研究所　1978年　880円
ベトナム戦争が終わり，ウォーターゲート事件後のアメリカをレポート。
〔0549〕

「アメリカの家庭生活」ジョン・アップダイク
大津栄一郎訳　講談社　1985年2月　1800円
アップダイクの描く人間は非常に善良で良心的で神経質で，それでいて他人を傷つけてしまう人間，自分でしかいられない人間である。夫婦，父と娘，父と息子の関係を離婚，別居という切り口からアメリカの家庭生活の状況を描く最新短篇集。
〔8525〕

「アメリカの家族」NHK取材班　日本放送出版協会
1983年　1200円
離婚，再婚の激増，独身主義，女性の自立，未婚の母などのアメリカの家族は激しく変化している。新しい家族像を求める人々の生き方や考え方をレポート。
〔1674〕

「家族の崩壊」　我妻　洋　文芸春秋　1985年2月　1300円

19年間にわたるアメリカ生活の後，帰国して4年になる著者が，アメリカ社会の病理的側面を分析し，アメリカ人の心理，アメリカ社会の特徴を明らかにする。“早晩アメリカで起っていることが日本でも起きる”という声に対して，日本人の生活と，アメリカ人の生活を比較し，その文化差を論じている。アメリカ文化を知る上での好書。「性の実験」の姉妹篇。〔1727〕

「性の実験―変動するアメリカ文化」我妻　洋　文芸春秋　1980年　1200円

滞米経験のながい社会心理学者の著者がアメリカという巨大な実験室で起こっている性モラルの変動を分析。ポスト・ベトナムのアメリカ社会に進行する価値観の変動，連帯感の喪失，過度の個人主義が生んだ孤独地獄などがアメリカ性革命の要因になっているという。〔0137〕

「アメリカの男たちは，いま」下村満子　朝日新聞社　1982年　1200円

アメリカの女性運動が男性たちに与えた影響をルポ。男と女，男と男の関係をセンセーショナルな取材内容で話題になった本。男の言い分を聞いてみる上で一読の価値はあろう。〔8113〕

「男が崩壊する」ハーブ・ゴールドバーグ　下村満子　PHP研究所　1982年　1300円

アメリカの男性たちが，いかに既成の文化と伝統が作りあげた“男の価値観”の中にドップリとつかり“男はかくあるべし”という社会の定めた鋳型の中に押し込められ，もがきあえいでいるかを著者自身はもちろんのこと，心理療法医として自分の接した多くの男たちの症例をあげながら描く。〔0753〕

上野千鶴子の　おんなの本・USA

（連載第3回）

リンダ・グレノン
「女と二元性――知識社会学的分析」

ジェンダーの「相反補足性」だの，「女性原理」，「男性原理」だのと，近ごろ議論がにぎやかだが，女と男のあいだに，自然／文化，陰／陽，左／右といった対立が成り立つと信じる前に，そうした二元的対立が，どこから来ているか，どんなしくみから成り立っているか，を考えてみるのも悪くない。

リンダ・グレノンは，女性学研究のメッカの一つ，ラトガース大学の社会学者。彼女の「女と二元性」[Glennon, Lynda, 1979, *Women and Dualism*: a sociology of knowledge analysis, London: Longman]は，ジェダー二元性論者のアタマの構造をメタ認識論的に解きほぐしてくれる。彼女は，日常意識の中にある「自然な思いこみの構造 plausibility structure」をみごとな手つきであばいて見せた知識社会学者ピーター・バーガーのまな弟子で，この本は，バーガーに捧げられている。

グレノンは，近代社会を規定する，「手段的 instrumental」と「表出的 expressive」の二項対立――知性／感性，合理性／非合理性，客体／主体，個性／共同性，公／私――に注目する。この知識社会学の枠組でジェンダーの応用問題を解くと，前者が「男性原理」，後者が「女性原理」ということになる。近代社会は，もちろんこのうち「男性原理」で突っ走ってきたあげく，今や危機に頻している，というわけである。この見方から，ジェンダー二元説についてのフェミニストの立場を分類すると，Ⅰ手段派，Ⅱ表出派，Ⅲ総合派，Ⅳ極性派の4種類に分かれる。Ⅰ手段派は，「男なみ平等」をめざす女権拡張論者，Ⅱ表出派は「女性原理」で窮地に陥った世界を救おうとするポスト・モダン派，Ⅲ総合派は，両方をかねそなえた全体的人間をめざす両性具有派，Ⅳ極性派は「性差万才！」で，女と男の相補的な共存をめざす男女協調派となる。

こう見てくると，最近はやりのエコロジカル・フェミニズムは，驚くほどⅡ表出派に近い。反成長・自然志向の反近代主義は，しかしグレノンも指摘するように，「ロマンチックな保守主義」と見分けがつきにくい。理性より感情，ことばより身体，という価値は，昔ながらの女性像の中に体現されてきたものだし，どうかするとファシズムの原理でさえありうる。エコ・フェミを含む「女性原理」派の功罪を，すっきりしたアタマで整理してみるには，これは役に立つ本だろう。

「アメリカのイヴたち」　亀井俊介　文芸春秋　1983年　1200円

レディと対照的な意味で著者がイヴと名づけたアメリカの魅力的な女たち。アメリカのレディ社会の最大のタブー，性のタブーに挑戦した，はげしい霊の力をもつ女たちをとり上げている。ヴィクトリア・ウッドハル，ケイト・ショパン，ゼルダ・フィッツジェラルド，マリリン・モンロー他。　〔0701〕

「アメリカ女性解放史」池上千寿子　亜紀書房　1972年　550円

アメリカ，ウーマンズ・リブの背景を歴史の流れの中に捉え，レディ・ファーストに代表される単純なアメリカ女性に対するイメージを一掃させる解放の過程を描く力作。なぜアメリカにリブが起ったかを知る上で役立つ。　〔1113〕

「アメリカ女性史」E・ホシノ・アルトバック　田中寿美子他訳　新潮社　1976年　980円

日系三世の女性研究者が描くアメリカ女性史の入門書。家庭生活・労働・フェミニズムの三つの基本的なテーマを中心に植民地時代から現代に至るまで女たちの歴史をたどる。　〔1114〕

「アメリカ史のなかの女性」ペイジ・スミス　東浦めい　研究社　1977年　2500円

アメリカ建国史学者によるアメリカ女性史。明治以来日本女性の先駆者たちに大きな影響を与えたアメリカ女性の業績をアメリカ史の中でとらえることもできる。ストー夫人，サンガー夫人から無名の女性まで。　〔1112〕

「アメリカ女性も変った―ライフパターンの新しい波」　宮本一子　サイマル出版会　1978年　980円

充実した自分の人生を求めて翔びたつニューヨークの女性たちをレポート。　〔0550〕

「女ひとりのニューヨーク」須田幸子　講談社　1981年　980円

移住者の群れるニューヨーク。著者の視たプエルトリコ人やユダヤ人商人の家庭。マンハッタンに住む日本老人やアメリカに帰化した日本女性。1970年代のアメリカのさまざまな階層の人々との交流を通してレポートするアメリカ人とは？　〔0754〕

「女たちのカリフォルニア」國信潤子　勁草書房　1985年2月　1700円

女性学的視点で捉えたカリフォルニアの二年間。家族とともに過ごした著者は生活の臭いのする比較文化論を展開。本号“訪問ウイメンズブックス”をご参照下さい。　〔0752〕

「女たちの同時代―北米黒人女性作家選　全7巻」　朝日新聞社　1981年―1982年

①青い眼がほしい　トニ・モリスン　1900円

この世でいちばん青い眼を下さい。あたしは美しくなり，家族も幸せになれるから―黒人の少女の不毛な夢を通して現れる，残酷な生にたち向かう人々の姿。全米で注目のモリスンの処女作。巻末エッセイ　津島佑子　〔8544〕

②獅子よ薬を食め　エリーズ・サザランド　1900円

2人の母から生命を受け継ぎ，15人の子を産み育てたアフリカの花・アベバ。<よりよき時代>を求め苦難の暮らしに耐えた黒人家族の歴史が，詩のように美しい言葉で綴られる。著者は新進の詩人。巻末エッセイ　森崎和江　〔8545〕

③死ぬことを考えた黒い女たちのために　ヌトザケ・シャンゲ　1400円

誰か／誰でもいいから　黒い女の唄をうたってほしい／その愛と　たたかい／苦難を　若い黒人の女たちの孤独と再生への祈りを，舞踏と詩にのせてニューヨークの舞台で大評判を呼んだ。巻末エッセイ　石牟礼道子　〔8546〕

④強き性・お前の名は　ミシェル・ウォレス　2000円

ブラック・パワーはなぜ敗北したのか。それは自らの力の源泉を<男であること>においたからだ。歴史に取り残されてきた女たちはいまこそ自己を回復し，息苦しい状況を切り開かなければならない。巻末エッセイ　矢島　翠　〔8547〕

⑤メリディアン　アリス・ウォーカー　2100円

熱狂の60年代に，合言葉<白人を殺せ>に同調できないメリディアンは，孤独な放浪に出る。南部の貧しい人々を救けながら。矛盾と重荷を自ら担った若い女性の姿に，黒人社会の希望が。巻末エッセイ　ヤマグチフミコ　〔8548〕

⑥真夜中の鳥たち　黒人女性作家短篇集　2500円

ウォーカー，シャンゲ，アレクシス・デヴォー，トニ・ケイド・バンバーラらの小品を集める。黒人女性の歴史，感性のありかをさぐり，アメリカ文化に吸収されない集団の独自性を示すこころみ。　〔8549〕

⑦語りつぐ　ゾラ・ニール・ハーストン，ルシール・クリフトン他　2500円

シリーズ最終巻は，人類学者にして作家のハーストンの代表作「騾馬とひと」。理不尽な歴史を生きのびた奴隷の家系の伝承「末裔たち」(クリフトン)など。巻末エッセイ　堀場清子　〔8550〕

「現代アメリカ女性作家の深層」渡辺和子・中　道子他　ミネルヴァ書房　1983年　2300円

9人の現代アメリカ女性作家の意識とその深層心理を同時代の状況と作品を通して明らかにする。アナイス・ニン，メアリー・マッカーシー，スーザン・ソンタグ，アリス・ウォーカーなど。　〔0700〕

「サラダバーの女たち―リブのあとの最新アメリカ女性レポート」　菅原真理子　紀尾井書房　1981年　980円

新進の総理府のキアリア組の著者がアメリカ留学体験をレポートする。　〔0536〕

「塩を食う女たち―聞書・北米の黒人女性」藤本和子　晶文社　1982年　1300円

アメリカ・イリノイ州に住む著者は母から娘へ魂から魂へ受け継がれてきた生きのびるためのたたかいを黒人女性から聞き書。苦境にあって人間らしさを手放さずに生きのびることの意味を尋ね歩く。　〔0684〕

「セカンドステージ―新しい家族の創造」
ベティ・フリーダン　下村満子　集英社　1984年
1600円

1981年に出版されたベティ・フリーダンの第二作。解放された女たちは著者自身も含めて長い闘いと運動を通して，離婚という苦渋を味わう。本書ではいま，女性運動は第二段階に入り人間同志を結ぶ絆としての新しい家庭の見直しが必要だという。〔0724〕

「隣の芝生イン・アメリカ」泉　尚子　時事通信社
1985年2月　1000円

渡米後アメリカ人と結婚し，カリフォルニアに住む主婦が書いたアメリカ生活レポート。〔0757〕

「ニューヨークでお仕事いかが―私の海外 OL 学」
野辺地真理　三修社　1980年　1200円

ニューヨークのキャノン USA 社の駐在員として滞米。留学経験とは異質のビジネス界の厳しさは能力主義にあらわれている。アメリカの OL 事情をレポート。〔8526〕

「ニューヨークの空は澄んで」板谷　翠　春秋社
1984年11月　1300円

家庭とともに滞在したニューヨークでふとしたきっかけで禅に出会った。ニューヨークを振り出しにインド・中国をまわった主婦ライターの坐禅紀行。〔8524〕

「ニューヨークの女ともだち」なみきみどり　集英社
1981年　880円

15年間の海外生活の経験をもつ著者が，長く住んだニューヨークの女友だち10人を選びその生き方を書いたもの。たくましく生きるアメリカ女性。ウイメンズシェルター（かけこみ寺）のこと，アルコール中毒の友人，ティーンズの麻薬，ユダヤ人女性のことなど。〔0538〕

「花嫁のアメリカ」江成常夫　講談社　1981年　1300円

太平洋戦争からベトナム戦争までの30年間に日本を離れた花嫁たちが，言語・習慣・風土が母国とは異質のアメリカで根をおろし，日本人の血を受けついだ二世を育てている。狭い島国を振り捨て異境で自立をする日本人女性91人を撮影し記録するフォト・ドキュメント。〔8098〕

「花もつ女」ジュディ・シカゴ　小池一子訳
PARCO 出版　1979年　1700円

アメリカ，西海岸のフェミニズム・アートの旗手ジュディ・シカゴの自伝。1979年に＜デイナー・パーティ＞と称する彼女の作品展がサンフランシスコで催され，大盛況をはくした。〔0285〕

「米国きゃりあうーまん事情」菅原真理子
東洋経済新報社　1982年　1200円

アメリカのビジネス界は女性という新しい血を注入されて活力を得ている。ボストン近郊の管理職女性やハーバードビジネススクールの女子学生にインタビュー。〔0596〕

「星明かりのアメリカ」ハロラン芙美子　文芸春秋
1982年　1100円

1980年「ワシントンの街から」で大宅壮一賞を受賞した著者の第2作。滞米10年の著者の眼を通して話られるアメリカの女たちの現在？　母・妻・女のトリレンマに悩む女性たち。〔0544〕

「マンハッタン式家族あわせ」ノーマ・クライン
松岡和子訳　河出書房新社　1983年　1600円

著者は1938年生まれのニューヨーク在住の作家。マンハッタンを背景に14歳の少女の性体験，親の離婚を描く辛口ドラマ。〔1717〕

「ワシントンの女」　岡田信子　中央公論社　1980年
980円

アメリカ人と結婚してワシントンに住む女性を主人公に失そうした夫，ベトナム難民，ベトナム帰還兵などの男女を描く小説。"ワシントンの女""アメリカン・ドリーム""藤色の豊作"の三部作。〔8523〕

「ワシントン　シングル・ウーマン」千野境子　三修社
1982年　1200円

記者留学生として渡米。アメリカの中心地ワシントンの女性をレポート。キャンパスの学生，キャリア・ウーマンを取材，日本の主婦像とアメリカ人など。〔0756〕

〔ヨーロッパ・カナダ〕

「主婦の英国　子供の英語」宇多村美津　三修社
1984年10月　1300円

著者は子どもたちが英国に溶け込んでいく過程をみながら，子どもたちが使うやさしい，簡単明瞭な表現に生きた英語の原点をみる。子どもたちの日常生活，学校生活を紹介しながら，われわれの受けた英語教育と英国での生活の生きた英語との比較している。〔8535〕

「イギリス小説の女性たち」鷲見八重子・岡村直美
勁草書房　1983年　2200円

J・オースティンの「説得」C・ブロンテの「ジェイン・エア」D・H・ロレンスの「チャタレイ夫人の恋人」M・ドラブルの「碾臼」などに描かれたイギリス小説の女性像を論じる。〔0696〕

「女たちのロンドン」加藤春恵子　勁草書房
1984年　1800円

ロンドンの女たちが直面している問題を日本の女性問題とかかわらせながらレポート。〔0709〕

「フランス離婚事情」かずみせきこ　講談社
1985年1月　1000円

南フランスに子連れ留学・在仏6年の著者がフランスの離婚をレポート。フランスの男女は想像を絶するほど恋愛志向でこれが結婚の枠をとびこえさせ，離婚ブームを巻き起こし，同棲に結びつく。フランスの離婚はフェミニズムと同様，男性を抜きにしては語れないという。男たちのピル，ガンバレ助産夫たちなど，新しい男性の出現も紹介されている。〔1726〕

「母と子のパリ日記」北上泰子　サンケイ出版
1985年3月　1400円

ソルボンヌ大学留学のため8歳をかしらに3人の子どもを伴ってパリに1年間住み，著者の目にうつったフランス生活をレポート。随所にフランス語が登場しフランス語好きには楽しめる内容。〔8543〕

「女性はどれぐらい自由か—フランスの婦人の現状とその解放」マドレーヌ・ヴァンサン　黒川俊雄監修
北原靖子訳　新日本出版社　1978年　900円
著者はフランス共産党政治局員として勤労婦人と家族の擁護と婦人解放について述べている。〔0534〕

「大いなる女性—フランスの婦人解放運動」E・モラン　N・ブノワ　B・パイヤール　吉田幸夫訳
法政大学出版会　1977年　980円
1967年から1971年の期間はフランスにおいては婦人解放運動がさかんであった。その時期に至るまでのフランスの女性解放の過程分析。〔0653〕

「私は家に帰りたい」クリスティーヌ・コランジュ
寺田恕子訳　文化出版局　1980年　880円
仕事が解放だとは思わないし，家庭が無条件の犠牲だとも思わない。自分を仕事の道具だとも家事の機械だとも思っていない。私は生きたい。私はすべてを同時にほしい—フランスの第一線のジャーナリスト（4児の母）が働く女性の本音を語る。〔0531〕

「幸せへの前奏曲—ドイツで頑張ってマス」
クライン孝子　三修社　1983年　1200円
西ドイツのフランクフルト在住15年の著者が社会的・政治的な背景を加味しながら書いたドイツの隣人たち。〔8537〕

「ドイツ婦人の家政学」　八木あき子　新潮社　1983年　980円
自国経済の原動力といわれるドイツ女性の生活の知恵456項を収録したドイツ式暮らしの手帖。〔1673〕

「菩提樹の花咲く国で—主婦・ドイツに生きる」
張さつき　未来社　1981年　1200円
物理学者の夫に同行した5年間のドイツ生活。子どもたちの学校生活。ドイツの住居。〔0545〕

「女たちの肖像—世紀転換期をドイツの女たちはどう生きたか」越智久美子編訳　泰流社　1985年5月　1800円
クララ・ツェトキン，ルー・ザロメ，ローザ・ルクセンブルクなど世紀転換期のドイツに生きた女性10人の生涯を現代作家たちが分担執筆。〔9638〕

「イタリア婦人解放闘争史—ファシズム戦争との苦闘50年」N・スパーノ　柴山恵美子訳　御茶の水書房
1979年　2000円
ファシズムへの抵抗，レジスタンスと解放戦争，男女平等法・新母親労働者保護法などイタリア婦人解放運動の展開と軌跡を豊富な資料に基づきその全容を明らかにする。〔1111〕

「ジュネーブ日記」　高橋展子　日本労働協会　1979年　980円
初の女性大使に起用された著者の体験的日本人論。国際機関という多国籍職場での体験，国際都市ジュネーブのことなど。〔8029〕

「自由な女—スペイン革命下の女たち」
マリー・ナッシュ編　川成　洋・長沼裕子訳　彩流社
1983年　1800円
ムヘレス・リブレス（自由な女）とは1936年に組織され，スペイン戦争（1936—39）の間に飛躍的に発展し，社会革命と女性解放を叫んで活動した女性団体。会員は女性労働者を主体に2万人に達し，アナキズム路線による社会闘争と性差別を撤廃するための女性解放闘争でもあった。〔1246〕

「ポーランドの女性問題」ロマン・ヴィエルシェフスキ
小山真理子・影山純子訳　三一書房　1981年　1800円
1975年に出版された「人民ポーランドにおける男女平等」の翻訳。男女平等問題の歴史，女性問題の発生，女子教育問題，管理職の女性の参加，ポーランド人民共和国における婦人運動。〔0537〕

「スウェーデンの実験」　竹崎　孜　講談社　1981年　420円
男女平等，個人主義を法律でも実生活の面でも実現しようとするスウェーデン人の理想社会をレポートし，未来の社会・家族を考える。〔0693〕

「スウェーデンの老人と福祉」平田冨太郎監修　成文堂
1972年　600円
北欧諸国の福祉行政の理念と構造。スウェーデン老人問題の経済的側面。〔4624〕

「女たちのモスクワ」　秋山洋子　勁草書房　1983年　1800円
仕事と家庭をもち，離婚や妊娠中絶に悩むソ連の女性たちをモスクワで，7年間生活した著者がレポート。一面では日本よりもはるかに先を歩いているソ連の解放された女たちではあるが，その女性解放は職業進出と法律上の平等の段階にとどまっているというソ連の女性の現状を鮮明に浮び上らせている。〔0708〕

「ソ連の女たち」　鴨川和子　すずさわ書店　1980年　1200円
ソ連を深く知る女性ジャーナリストのレポートしたソ連の女性たち。ソ連社会に対する根づよい偏見を正す。〔0554〕

「離婚大国ソ連の女性に何が起きたか」川上恭正
講談社　1984年　1200円
4年半のモスクワ特派員生活から社会主義体制の下で，ソビエトの女性たちはどう生きているのか？　結婚・日常生活・老後問題をレポート。物不足・長い行列・住宅難にあえぐ超軍事大国ソビエトの国民生活は？〔8071〕

「女性とロシア—ソ連の女性解放運動」
T・マモーノヴァ　Y・ウォズネセンスカヤ
片岡みい子編　亜紀書房　1982年　1500円
T・マモーノヴァはソ連最初のフェミニストの非公認雑誌「女性とロシア」を1979年に刊行した編集者である。1980年に入りKGBの厳しい監視下にありながら地下組織の連絡網により，社会主義体制下における日常生活の場での女性差別の実態を報告しつづけている。ロシア・フェミニスト群像。労働収容所における女性と子ども，KGBとの対話他。〔0662〕

「女たちのヨーロッパ」　槙村久子　勁草書房　1984年　1700円

ヨーロッパ四カ国18日間の巡遊旅行のレポート。ジャーナリストのみたヨーロッパの女性たち。〔0716〕

「ヨーロッパの生活と文化」後　恵子　近代文芸社　1985年3月　1200円

四年間英国と西ドイツで暮らし，その後も夏をヨーロッパで過ごしている著者のヨーロッパレポート。〔8536〕

「カナダでのお産」　船川玲子　あすなろ社　1982年　1200円

カナダでのラマーズ法無痛分娩による出産の体験をドラマ風に記録。またリブたちの間で増えつつある自宅出産も報告されている。〔0056〕

「モザイク社会の女性たち―カナダレポート」深尾凱子　菅原真理子　ELEC　1979年　1700円

アメリカのように派手な動きはないけれど，カナダの女性は着実に新しい時代に向って歩いている。〔8115〕

〔そ　の　他〕

「各国女性事情」　樋口恵子編著　学陽書房　1981年　1100円

体制や条件の異った国々の女性事情をレポート。女たちのエネルギーの満ちる国(アメリカ)，男も変わろうとしている(スウェーデン)，愛のための女性解放(フランス)，解放への長い道のり(ソ連)，天の半分を支える女たちの解放度（中国)。〔0591〕

「世界の女たちはいま―男女平等の波」柴山恵美子編著　学陽書房　1984年　1500円

各国（アメリカ・イギリス・スウェーデン・イタリア・フランス・東ドイツ）の働く女性の状況を示し，わが国の雇用における男女平等のあるべき姿を考える。雇用均等法を考える手がかりになり，＜性差別＞と＜労働＞の各国の状況を知ることができる。建前だけに始終してしまっている日本との比較に役立つ。〔3134〕

「マダム・商社―海外の駐在員夫人たち」谷口恵美子　学生社　1985年4月　1300円

“日本を今日の経済大国にしたのは，男性の力が半分，女性の力が半分，いやそれは女性の犠牲の上に成り得たのです”という前がきからはじまる現役商社マンの妻がつづった海外生活。会社の人事部主催の海外駐在員夫人渡航研修に始まる渡航，男と女が別れて坐わる奇妙な日本人パーティ，海外の婦人会など。〔8100〕

「地球の女性たち」　吉田和子　オール出版　1984年　1000円

青春時代　妻の時代　母の時代，新しい女性の生き方と現代女性の側面を世界各国の女性の状況と比較。〔8114〕

「こちらラジオ・ジャパン―NHK 国際放送はいま」日本放送出版協会　1985年2月　1500円

海外で1000万人が聴いているという放送開始50周年を迎えるラジオ日本の足跡と資料。〔8099〕

「母国考」中津燎子　情報センター出版局　1984年9月　980円

自分の中に母国に適応できない異質をかかえて，自分を変えずに日本で住む方法。自分のアイデンティティを求めて苦しんだ自らの体験をもとに，海外で両親とは異なった風土・環境で成長する子どもの心に何が起こるかを分析。巻末には学会誌で発表された“幼児・児童期を海外で育つことの意味”を掲載。〔8112〕

「女の文化人類学―世界の女はどう生きている」原ひろ子・綾部恒雄編　弘文堂　1982年　1600円

女性文化人類学者13名が中心となり，それぞれの専門領域の女性を語る。ヘヤーインディアンの女，サモアの女，インドの女，アラビアの女，ドイツの女，アメリカの女。〔0507〕

「性の植民地―女の性は奪われている」キャスリン・バリー　田中和子訳　時事通信社　1984年　1800円

性が一つの権力となっている家父長制の下ではすべての女性が性的奴隷制の犠牲者となる可能性がある。自らの足で歩いて集めた奴隷制の実例。国際人身売買組織，各国の性事情の資料も豊富な労作。〔0170〕

「ファミリーズ―欧米の家庭・日本の家庭」杉田弘子　TBS ブリタニカ　1981年　1100円

著者が実際に生活した独・伊・米家庭と日本の家庭を比較し，これからの家族を考える。〔1701〕1100円

「シングルズ―脱結婚時代の生き方」H・シュライバー　西　義之訳　TBS ブリタニカ　1978年　1100円

シングルズとは，ひとり身を自由に生きるすべての人たちを指す言葉。世界的傾向といわれるこれらのシングルズの実態に鋭いメスを当てて心理学・社会文化の面から考察する。西ドイツのジャーナリストの書いた脱結婚の実態。〔0522〕

HOT NEWS!

この夏，ブックフェア開催！

会員待望の土，日に開催。遠くの人も，多忙な人もこのチャンスにぜひご来店ください！

と　き：8月24日（土）　25日（日）
　　10:00 am～5:00 pm
ところ：松香堂書店

◎第1テーマ……いま家族とは何か
◎ミニコミ誌多数（当日持ち込み歓迎）
◎著者とのひととき……**深江誠子**さん
　24日（土）1:00 pm～4:00 pm　2F談話室にて
　著書「女と男の経済学」（本号2p参照）
　「女たちの死刑廃止論」「アフリカと国際関係」「女・エロス」（共著）等

友の会事務局から

会費未納の方はできるだけ早くお振込みください。（未納の方には振替用紙の通信欄に金額を記入させて頂いています）一年分1500円です。新規入会の方は入会金として500円頂戴することになりました。よろしくお願いします。なお住所変更の方は至急お知らせください。退会される場合も必ずご連絡下さい。（美）

——女性のための——

最　新　刊　案　内

—1985年3月～
1985年5月及び
第14号未掲載分—

〔性・からだ〕

0184「さらば・悲しみの性—産婦人科医の診療室から」
河野美代子　高文研　1985年4月　1100円
若い性の悲劇を産婦人科医療の現場から警告。若い女性の“彼にせまられたから仕方がなかった”という一方的な性関係，性に対する無知と偏見。性をめぐる若者達の実態を最前線の現場の女医がレポートする一読の価値ある本。

0185「文化としての妊娠中絶」マルコム・ポッツ
ピーター・ディゴリイ　ジョン・ピール
池上千寿子　根岸悦子訳　勁草書房　1985年3月
6000円
人為的中絶に生命派と選択派の不毛な対立を巻き起こしている中絶問題を多分野にわたって追究した画期的な力作。中絶の歴史，宗教・医学等のほか，世界各国の中絶問題の現状も報告されている。

0186「現代の性—女性記者のレポート」冨重圭以子
加藤節子　合同出版　1985年1月　1000円
女性の労働市場での価値の低さと若い女性の性の商品化はネガとポジの関係にあるのではないか。女も男も貧しく淋しい性の中にいるのでは？　新聞記者がレポートする現代の性事情。

0187「女医の診察室から—渥美半島に生きて」北山郁子
労働教育センター　1985年2月　1300円
女医の診療室から，強姦は心への暴力，性非行とは何か，私の視たヨーロッパの性教育などを語る。

〔評伝・女性史〕

9635「紫琴全集　全一巻」古在由重編　草土文化
1983年4月　7800円
清水紫琴は小説家・ジャーナリストとして明治時代に青鞜より先立って活躍。小説・評論，紫琴小論（女性学的アプローチ　駒尺喜美）他。

9636「平林たい子研究」信州白樺編　信州白樺
1985年2月　1800円
長野県出身作家　平林たい子を14人の気鋭の評論家が論じる。

1274「女の戦後史　II　昭和30年代」朝日ジャーナル編
朝日新聞社　1985年2月
具体的な32テーマによって昭和30年代を検証。ダイニング・キッチン，母親大会，女性週刊誌，家事労働論争他。

1275「広島県女性運動史」鈴木裕子　ドメス出版
1985年2月　1300円
広島県が生んだ明治社会主義者・神川松子，無産婦人，女工，婦人翼賛運動，戦後の婦人運動など広島県の女性運動史を新資料を駆使し，先駆的活動家を発掘。

1276「ファッションの歴史　上・下」
J・アンダーソン・ブラック　山内沙織訳
PARCO 出版局　1985年1月　各2500円
<着飾る>ことの歴史をたどる。豊富なカラー写真入りで紹介。ファッションに魅せられた男性の服装を見るのも楽しい。

1277「中世の結婚—騎士・女性・司祭」
ジョルジュ・デュピー　篠田勝英訳　新評論
1984年10月　2800円

1278「国防婦人会—日の丸とカッポウ着」藤井忠俊
岩波書店(新書)　1985年3月　430円
日中戦争下の銃後体制を支える要の一つであった白いエプロンにたすきがけ，小旗をふって出征兵士を見送る。1932年に40人で大阪で発足した国防婦人会。10年後には1千万にふくれ上がった。日本ファシズム形成過程で唯一下からつくられ庶民的性格をもち，最多数の会員を得た組織であった。民衆動員の様相，銃後形成を示す社会史。

1279「戦後女性犯罪史」玉川しんめい
東京法経学院出版　1985年6月　1200円
女性犯罪の特色を解説。男権社会に対する女性の反乱という視点でとらえられている。

〔女　性　論〕

0759「資本制と家事労働—マルクス主義フェミニズムの問題構制」上野千鶴子
海鳴社(モナド・ブックス35)　1985年1月　500円
家事労働を理論的に問題構制。家父長制と資本制による二重の女性支配の構造をとらえる。

0760「わたしたちの『江戸』—女・子どもの誕生」
本田和子他　新曜社　1985年2月　1500円
江戸の中・後期になると幕藩体制がゆるみ，人やものの交通が急に激しくなり，それにともなって浮上してくる<女・子ども>の動きに注目。絵本・往来物に視る江戸都市文化論。お茶の水女子大児童文学の女性研究者3名による共同作業。

0761「女性は自立する—自己実現と社会参加をもとめて」若林　満　伊藤雅子　福村出版　1985年4月
2000円
女らしさの形成とそのジレンマ，青年期の自主教育，青年期の職業選択，キャリアをもめて，変わりゆく社会と男女の役割他，参考文献・資料付。女子教育のテキストとして好書。

0762「ハッピーエンド・コンプレックス」
リー・モリカル　木村治美訳　集英社
1985年4月　1200円

大学でカウンセリングの講座をもち“女を助ける女たちの会”を主宰している著者が書いた女性の生き方の本。ハッピーエンドに向かってせきを切ったように走りはじめた女性たちに途中の風景を楽しむことこそあなたの人生だととく。

0763「21世紀のシナリオ」菅原真理子　中央法規
1500円

団塊の世代が老後を迎える21世紀は高齢化社会である。他の国々が体験したことのない高齢化社会を日本はどのように生き抜くのか。

0764「イブたちの夜明け―21世紀・おんな・レジャー」
嶋田道子・白石嘉宏　中央法規　1985年3月
980円

変化の潮流は女たちがつくっているのだ，21世紀は女たちが主役。メディアで活躍している著者が，21世紀の女たちの社会を予言。

0765「生活世界の社会学」江原由美子　勁草書房
1985年1月　2500円

多元的リアリティとしての生活世界，シュッツ社会学とその方向性。著者は数年前リブを分析し注目された新進の社会学者。

0766「男たちへの応援歌」佐藤綾子　講談社
1985年3月　1100円

家庭を顧みない企業戦士の妻は犠牲者であるとする考えを著者は神話にすぎないと言う。現代の夫妻のあり方を企業競争を戦わねばならない日本の夫たち，アメリカの夫婦たちに取材し，夫のおかれている立場を理解せねばと企業側のうれしくなるような男たちへの応援歌。これでは性別役割分担撤廃の方向が視えにくくなってしまうと思えるのだが……。

0767「教会と第二の性」メアリー・デイリー
岩田澄江訳　未来社　1981年　1500円

ボーヴォワールやベティ フリーダンの影響を受けて女性問題を考えてきた著者は，カトリック教徒としていかに彼女が自由でなかったかを告発し，フェミニストとして教会内での改革を目指して執筆。キリストの言葉には性差別はなかったが，宗教としてのキリスト教は男女を平等には扱ってこなかったばかりか，女性の抑圧に加担してきた。

0768「歴史の斜面に立つ女―文学のなかに女性像を追う」奥野健男　毎日新聞社　1984年12月　1200円

佐多稲子・宇野千代から津島佑子・木崎さと子までをとり上げ，作品にあらわれた女性像を語る。

0769「私の女性論―性的役割分業の克服」竹中恵美子
啓文社　1985年4月　980円

女性問題と私，男女雇用機会均等法をめぐって　資本主義と家事労働（上野千鶴子「資本制と家事労働」海鳴社参照），私の見たアメリカの女性問題。

0770「婦人解放と結婚の将来」嶋田津矢子
ミネルヴァ書房　1985年3月　2400円

スウェーデンにおける婦人運動，ソ連における家族問題，中国革命と婦人解放，婦人解放の新しい地平―女性の立場からリブ運動批判，イリィチのシャドー・ワーク理論について，結婚における役割行動他。著者は大正5年生まれの社会学研究者。

0771「現代婦人論入門」伊藤セツ　白石書店
1985年2月　1600円

著者はクララ・ツェトキンの研究者。家事労働論，主婦論争の上野説を批判する。

0772「自然な関係」吉田真由美・山本コウタロー
教育史料出版会　1984年7月　1300円

今，話題のカップルが男女の自然な関係を語る。ニューファミリーに人気のカップルの本。

0773「女と男の経済学―暮らしとエロス」深江誠子
社会評論社　1985年3月　1600円

日本のアジアへの経済侵略・買売春観光を糸口に日本人の性感覚・性道徳を支える婚姻制度を洗い直す。

0774「超少女へ」　宮迫千鶴　北宋社　1984年8月
980円

少女文学の古典と今日的少女文学を解説する。著者の創造した＜超少女＞は興味深い。

0775「私の『女性学』議義―シリーズ　女・いまを生きる⑰」小松満貴子　ミネルヴァ書房　1985年5月
1700円

女性学講座のテキストとしてよくまとめられた好書。

〔結婚・家族〕

1728「家族社会学の基本問題」飯田哲也
ミネルヴァ書房　1985年4月　2800円

史的唯物論を糸口に家族社会学の理論構築の方向を追究。資本主義社会と家族，家族問題の基本理論，主婦問題と配偶者選択，主婦論争にも触れている。

1729「家庭崩壊―妻が夫と子供を捨てる時」日本テレビ
日本テレビ放送網　1985年4月　850円

日本テレビお昼のワイドショー放送のテレビ公開捜査に登場した妻蒸発の典型的な12例を報告。働かない夫，ローンの返済のために夜の世界に出た妻，家族ぐるみの交際の果てに，大学生との恋に陥ちた妻，サラ金地獄。

1730「いまの家族　これからの家族」
生命保険文化センター編　日本放送出版協会
1985年2月　1100円

学際的に家族のあらゆる問題にアプローチ。家族を考える手がかりになる。よくまとめられた好書。

〔子　育　て〕

2237「子どもと本のかけ橋」上田由美子　大和書房
1985年4月　1200円

長年，児童図書館員として子どもと本のかけ橋たらんとして活動してきた著者が，子どもを通して知ることのできた良い本の条件，子どもの生活と絵本など。現場からのエピソードも混じえながらつづる絵本の入門書。

2238「こどもの生態系が変わった—データが語る70年代と80年代」NNS 調査委員会編
日本テレビ放送網 KK　1985年4月　2000円
テレビのネットワーク27社による子ども文化，子どもの（小学生3年～6年生）生活の実態の調査報告書。子どもについて考える教育者・研究者に参考になるデータも多い。こどもに好かれるマンガ，将来何になりたい，塾やおけいこは，おこづかいは，など。

2239「子育ては育自から」川端利彦　文化出版局
1985年　980円
母親がどのように生きて，どんなモデルを子どもに示せるか，なによりも，子どもと一緒に自分がどれだけ育つことができるかが大切であるという精神科医の子育て論。

2240「愛のおもちゃ図書館—障害児とお母さんのこころのふれあい」小林るつ子　くもん出版
1984年6月　1500円
国際障害者年，1981年5月に東京都三鷹市におもちゃ図書館が誕生して以来，3年の間に全国に100カ所以上のおもちゃ図書館ができた。この運動の創始者である著者がその情熱と3年間の歴史を語る。

〔老後問題〕

4734「ぼけが起ったら—老人性痴呆への新しい考えかた」ナンシー・メイス & ピーター・ラビンズ
中野英子訳　サイマル出版会　1985年2月
1700円
アメリカ医学界で定評のあるジョン・ホプキンズ大学特別チームが新しい考えかたに立って患者や家族にとっての＜ボケ＞介護のあらゆる問題に的確に答えた手引書。ボケは老化ではなく，病気であるという立場から書かれた話題の本。

4735「老人看護—病人に感謝される心と技術」後藤榮子
講談社　1985年2月　1200円
老人の家庭看護の知恵。著者は日本在宅看護普及会代表。

4736「お年寄りと暮らす」阿部初枝　筑摩書房
1985年2月　950円
老人介護にかかわる人のための知恵とヒント。

4737「老後の暮らし百科」岡村重夫・那須宗一監修
黒田輝政・森　幹郎・奈倉道隆　ミネルヴァ書房
1985年3月　2800円

〔ドキュメント〕

8102「子どもたちに伝える東京大空襲」関口照治
ドメス出版　1985年3月　1200円
東京都墨田区菊川小学校をめぐる空襲体験をこの小学校の先生が子どもに語りつぐ記録としてまとめる。

8103「心はみえる人だよ」今井美沙子
凱風社（シバシン文庫）　1985年4月　1250円
大阪に住む全盲の女性マッサージ師の半生の記録。知恵遅れの女性を引きとりともに暮らす中で，盲人の女性を嫁がせた沢田静枝。著者は人知れず咲く花のように生きた女性をテーマにヒューマン・ドキュメントを書く作家。

8104「ネットワーキング—ヨコ型情報社会への潮流」J・リップナック & J・スタンプス
正村公宏監修　プレジデント社　1984年5月
1900円
会社・職業を異にする人たちが，共通の目標や価値観によって結ばれ情報を分かち合う自主的社会参加活動—ネットワーキングの実態調査。

8105「広島第二県女二年西組—原爆で死んだ級友たち」関　千枝子　筑摩書房　1985年2月　1200円
当日欠席していたために死をまぬがれた著者は原爆で全滅したクラス全員の死にいたるまでのさいごの姿を求めて8月6日から15日までを再現。興味深いのは，著者が動員学徒犠牲者として靖国神社に合祀された級友の＜靖国＞にこだわり，あの日私が学校を休んでいなかったら＜靖国の神＞になっていたと…，このあとがきは一読の価値あり。

8106「満州は知らない」　吉田知子　新潮社　1985年
1100円
満州体験「大興安嶺死の800キロ」（絶版）を著わした著者の残留孤児をテーマとした小説三作で，女流文学賞受賞。

8107「まゆみ—非行少女と女性保護司の記録」清川彩子
教育史料出版会　1984年12月　1000円

〔エッセイ・その他〕

8538「ねずみおんなは食み破る」日方ヒロコ
社会評論社　1985年2月　1200円
近代化の沈め石の役割を果たさられている被差別部落民，パートの女たち，獄中者，在日韓国・朝鮮人，底辺に生きる人々との連帯の中から，鋭い切り口で社会を告発する辛口エッセイ集。本号13 p. をご参照下さい。

8539「主婦作家として成功する方法」
エレーヌ ファントル シンバーグ　赤尾秀子訳
講談社　1985年3月　980円
多くの雑誌のライターとして活躍中の著者は5人の子どもをかかえる主婦作家。ユーモアあふれる文章で具体的に，いかにして時間をつくるか，家事をやるかなど数々のアイデアを提供してくれる。専業主婦が外に働きにでるときのノウ・ハウとしても役立つ。

〔雑誌・資料〕

7357「大学へのもう一つの道—社会人入学・編入学のすべて」　安井みすず　創元社　1985年　980円
大学への進学に適齢期はない。勉学の意欲を持つ社会人や編入希望の学生にも重宝な資料。460校を取材し，編入学・聴講生・大学公開講座など豊富な資料。

7358「資料　国際婦人年—国連婦人の10年から21世紀へ」国際婦人年大阪の会編　創元社　1985年3月
980円
メキシコ会議，コペンハーゲン会議，ナイロビ大会にむけて。世界行動計画，国内行動計画，差別撤廃条約など基本資料と解説。

7359　思想の科学　No. 61「強姦論—からだに聴け」
思想の科学社　1985年4月　640円
河合隼雄—強姦と日本思想史，富岡多恵子—強姦についての私の考え，宮　淑子—強姦　文化を超えて　他

—連載—　訪問ウイメンズブックス③

「女たちのカリフォルニア」の　國信 潤子さん

大阪の郊外，枚方市にある新居に國信さんをお訪ねしました。企業マンの夫のカリフォルニア・バークレー校での研究に伴って家族で渡米，國信さん自身もバークレー校で女性学，社会学を学び昨年9月に帰国。そしてこのたび長男である夫の両親のもとを離れ，待望の核家族の生活がスタートして，<家>の重圧から解放されたばかりとのこと。カリフォルニアでの2年間の海外生活は夫のライフスタイルを変えるきっかけとなったそうだ。彼女は家族との生活，夫との関係を非常に重視し，企業人間の夫対女性学を学ぶ妻との性別役割分業撤廃の戦いがくりひろげられた。

本書は女性学的視点によるカリフォルニア周辺のレポートで，数多く出版されている海外生活体験記の中では読みごたえのある本である。「この本は今まで女性学に触れる機会のなかった本来保守的なオバちゃま方がよろこんで読んで下さったの。ほんとうは専門家からの反響も期待していたのだけれど，でも女性学の視野を広げるのには役立っているみたいで……」と語る。研究者であり家族をかかえる生活者でもある著者のバランスのよい視点がゆきとどいているためかもしれない。ただ，その視野が都市郊外の中流層に限られているのは残念だ。本書に，カリフォルニアの女性たちが未知のライフスタイルを試していく勇気，1回しかない人生を自分で創り出す開拓精神に大いに刺激を受けたと書かれている。経済的自立を大人として当然のことと考えている多くのアメリカ女性からみれば，企業人の夫に同行してカリフォルニアに滞在している企業の奥さんはあまりにも夫に依存的にみえたという。また<ジャパニーズマン>という言葉はカリフォルニアでは家事・育児に参加しない男性のことを指すという。また日米経済摩擦をうみだす日米のバックグラウンドの違いについても述べられている。

ところで，これからの男性はこうあってほしいという男性像をバークレーでみたという。ティモシー・ベネケ（14号おんなの本・USA で紹介した「男から見た強姦」の著者）もその一人で，同じクラスだった。資本制の中での男性の限界を語りはじめた男性。ボランティア活動に積極的に関わる男性。男らしさの束縛から解放され，もっと人間らしい生活を，という男性フェミニストたち。少数ではあるが彼等は動きはじめているとのこと。

一方，自立していく女性たちは子どもをかかえて離婚。男性はシングルで前よりも豊かになり，<貧困の女性化>の現象はいま，深刻な社会問題であるという。

國信さんはジェンダーの社会学に興味をもち，現在大学院博士課程に籍をおき，研究者として，また地域社会の生涯教育の講師として活躍中の小学生二児の母親。家の2階にある<私ひとりの部屋>で研究と執筆。夫があてにできない日は，ベビーシッターを頼んで夜間の会合へも出かけるという意欲旺盛な方である。

勁草書房刊　1,700円

（明）

!! シンボルマーク決定 !!

先号で公募しましたシンボルマークが決まりました。ご応募いただいた中から，高橋花代様，中野直子様，村松麻耶様のアイデアが最終選に残り，村松さんのを採用させて頂くことになりました。このマークを使用した便せん，封筒，Tシャツ，バッグの製作を企画しています。でき上りましたらご愛用の程を！

【品切・絶版　価格訂正のお知らせ】

2024「危ない母親」小田　晋　品切れ中

0580「家庭の構造」国際女性学会編　絶版

0557「スウェーデン女性解放の手引き」M.ヘッグ　絶版

「総合ジャーナリズム研究　81号—女性雑誌を考える」　絶版

3011「女性人材論」天野正子　1,000円→1,100円

2058「子どもからの自立」1,000円→1,200円

8511「女の気持ち」　ジェーン・オールリ　三笠書房　1,200円

《あなたの情報・私の情報》

虚構を破り現実の革命的ロマンの世界へ

「ねずみおんなは食(は)み破る—私の監獄考」
日方ヒロコ著　社会評論社

岡本理絵

この世から飛翔するために革命的ロマンを夢見ている人は，この本を読んだら夢から覚めてしまうだろう。…そのかわり，虚構の世界を喰み破って現実の革命的ロマンの世界へ踏み出したくなる筈だ。

本のサブタイトルは「私の監獄考」とある。監獄というのは刑務所ばかりをいうのじゃない。私達の暮しているこの世界にどれだけ多くの有刺鉄線が張り巡らされていることか。——死刑制度，冤罪の落し穴，原発，管理教育，女性差別，その他たくさん。いくつもの問題は有刺鉄線のトゲで，実は全部ひとつながりになって私達のいのちを，しばっている事を，日方さんは知らせてくれる。

あなたも『ねずみおんな』の仲間になりませんか？

「女たちの死刑廃止『論』」（死刑をなくす女の会編　三一書房）の中にも日方さんのなぜ死刑廃止かを，わかりやすく書いてあるので，是非併読して下さい。

（本号 11 p. をご参照下さい）

私の出産体験と「自然出産」

ダナエ・ブルック著　批評社

田中日出子

薬を飲んでも15分間隔で痛みがくる。やっぱり入院や。1カ月と1週間早い陣痛。毛布の中での点滴で手を合わせられないのが残念だけれど，心の中で「どうか生きて私の腕に抱かせて下さい。生きることのすばらしさをこの子にも与えて下さい」と何度も繰り返した。

陣痛室の産婦さんたちは，大きな痛みの声をあげて看護婦さんに「まだ，きばったらあかん！」と注意されているのを尻目に，私は陣痛の間隔の短かくなるのを感じ，さあ　がんばろうな！　と心で相図して「自然出産」の本の中の呼吸法を展開させる。「二人目やから，辛抱したらあかん，すぐ生まれるね」の声にも「まだ大丈夫です」と答えながら分娩室へ。「ボクは，出るいうたら出る」の勢いで二男は生まれた。

「次の子どもはこんなに楽に産めると思わんといてね」と後処理をする先生に言われながら，心の中で「自然出産」のおかげですと思った。みんながよかったねと言ってくれるのを聞きながら，ひとり　さあ三人目が始まるで，とニヤリとした顔を見たのは神様だけだったのでしょうか。第1子を生む時，大変な難産だっただけに，ウイメンズブックストアで出会った1冊の本「自然出産」に感謝している。

〒603 京都市北区大宮玄琢北東町1-28

発掘された女性写真家の生涯

「インディアス群書3　ティナ・モドッティ—そのあえかなる生涯」
ミルドレット・コンスタンチン著
グループ・LAF 訳　現代企画室刊

本多真紀子

ティナ・モドッティは女優，写真家，革命家，そしてスペイン戦争のさなかでは看護婦であった。イタリアに生まれ，アメリカ合衆国で青春を迎えた彼女は，1920年代から40年代初めという嵐のような時代を，メキシコ→ドイツ→ソヴィエト→スペイン→再びメキシコと，駆けまわるように生き，そして死んだ。

ティナは，女だということで自分をしばりつけて固定するものを敏感に感じとり，それを拒み続けた。ハリウッドの女優時代に押しつけられた<美女ティナ>の役割の苦い思い出がそうさせたのかもしれない。

私たちグループ LAF にとって，この本の翻訳は，初めてのまとまった仕事といっていい。私たちは，ラテンアメリカなど<第三世界>の民族解放や女性解放に対する共通の関心から集まったグループである。自分たちの訳文が1冊の本になってしまったことに冷汗を流しながら，皆さんに紹介する次第である。（本号 3 p. 参照）

連絡先：075-791-4944　本多
または　075-451-9501　若芝まで

京都市社会教育振興財団主催シティ・セミナー「主婦たちのゆくえ」を企画してみて

日本女性学研究会フェミニスト企画集団
世話人　國信潤子

京都市のシティーセミナー女性論コースの企画をしてみることになって日本女性学研究会内にフェミニスト企画集団というプロジェクトチームを発足した。今までとかく先生のお話しを聞くという型のものが多かった自治体主催の女性学講座を少しでも参加者にも開かれたものにしてゆきたい，という主旨で企画した。

＊シリーズ I「変容する家族と主婦のゆくえ」

6月4日（火）10時～12時　講師　國信潤子
主婦のゆくえ　—女性学的主婦論—

6月18日（火）10時～12時
シンポジウム　～変容する家族～

7月25日（木）14時～16時　講師　白井　厚
女性論の歴史　1. イギリス・アメリカを中心に

7月26日（金）14時～16時　女性論の歴史 2.

＊シリーズ II「これから女たちの生活はどうなる？」

8月6日(火)～10月1日(火)まで4回

受講料　1シリーズ（4回）　2,000円
会　場　京都市社会教育総合センター
申込み先　京都市中京区丸太町通り七本松西入る
075-802-3141
社会教育総合センター　1階事務室
お問い合わせは　0720-44-3045（國信まで）

連載

ミニコミの女たち

第12回

〈こ　と　ば〉

現代日本語研究会の

遠藤織枝

自己紹介

ここ20数年，留学生の日本語教育に携わっております。82〜83年にかけて，夫と3人の子供を残して北京へ単身赴任，中国人の日本語教師に対する日本語再教育の仕事をしてきました。あのときの家事を解放された自由さと，中国人学生のひたすら前向きの情熱が懐かしいです。

現代日本語研究会――研究会を開く会場がなくて，区の安い集会室を借りにいったひとりが，名称は？と問われて苦しまぎれにつけた名前なんです。いかめしくて，立派すぎて，中にいる者に重すぎて，早く改称をと思ってはいるのですがいい代案がみつからなくて今までできてしまっています――は，ことばのあらゆることに興味と関心をもつ者の集まりです。高校や大学で国語や国語学を教えたり，外国人に日本語を教える仕事を通じて，自分たちの母国語でありながらわからないことが多すぎる日本語をどんな面からでもいいから研究してみたい者ばかりです。それと，仕事や家庭に追われる日常の中で何か自分を縛りつけるものがなければ流されてしまう，というところからあえて束縛するものを必要とするもの同士を結びつける縄の役割も果たしています。

はじめのころは，月に研究例会をもち，順番に自分の研究テーマ――敬語，受動表現，段落，文章論など――について調べたことを発表し，討論していましたが，やがてそれだけでは言いっ放しで深まらない，密室の中の自己満足に終わりかねない，などの反省から雑誌にまとめようということになりました。それが5年前から発行しはじめた女性による研究誌「ことば」です。

この雑誌を出すようになってから，一般的言語現象の研究を進めるのとあわせて，女性の視点で“ことば”をみる研究を手がけるものが出てきました。社会学的に，心理学的に，生物学的になど女性を新しく見直す研究が盛んになってきているのであれば，ことばに興味をもつ研究グループとして，ことばの面からのアプローチもできるのではないかと考えたわけです。

“女性語”とか“女ことば”とかは，従来の国語学の研究分野にも含まれていて研究も盛んですが，これは“女性の使うことば”の研究です。私たちの考えるのは，そうではなくてことばが女性をどう表現しているか，つまり，ことばの上で女はどう把えられ，どう位置づけられているか，それはまた実際の女とどう影響し合っているか，ということなのです。

それを知るには古典から現代の文学作品でも，新聞，雑誌でも，いろいろなジャンルで調べることができますが，ことばのカタログでもある国語辞典をまず材料として調べてみました。これは5種類の小型辞書を全部調べてカード化し分析したのですが，公正な規範とされている国語辞典がずいぶん偏っていることがわかりました。その同じ方法で新しく改訂されたばかりの「広辞苑第3版」も調べたところ，やはり女性差別意識が各所にみられることがわかりました。

この研究が昨秋商品科学研究所の女性の目でみた商品研究論文大賞の一つに選ばれ，思わぬ反響に戸惑ったという次第です。国語辞典を商品としてみた意外性と，絶対正しいと神聖視されていた「広辞苑」が“推してしるべし”の用例に

男だって無理なのだから女子供は推してしるべし

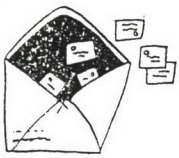
のような例文を掲げるという女性蔑視の体質を温存していることを知った驚きとで，マスコミが大きくとりあげたというわけ。

現在は，5年前からの小型辞書の共同研究の結果を自分たちだけの狭い世界に閉じこめず，もっと広く皆さんに知っていただきたいと，単行本にする作業を進めております。その本が出ましたらぜひ読んでくださいネ。

メンバーは50歳に手の届く子育て卒業生から大学院在学生まで，日本語教師をめざす留学生も加えて常時10数名。子供2人を別々の保育園に預けたり，ベビーシッターさがしに明け暮れの子育て修羅場まっ最中もいて，全員集まるのはなかなかむずかしく，夏に合宿をして，1年分の話し合いと雑誌の段取りを決め，次へのエネルギーを蓄えることにしています。

連絡先　東京都杉並区宮前3-2-19
遠藤方
TEL 03-334-2790

オーストリア通信



ポレサーク・中野　直子

ウイメンズブックス購読申込のきっかけは雑誌「モア」でした。外地で生活して居ります日本人として，日本の動向を知りたい一心，また日本語の書籍をなかなか思うように読めない不自由に，新刊書籍案内を日本から取り寄せることで，少しは情報を得たいと思い，貴誌もその資料として申込みました。

1977年以来，オーストリアには，まず音楽留学生として，その後も仕事をしながら勉強を続け，現在はオーストリア人と一戸の家庭を持つという具合に，身分的に変化しつつ長年暮らしました。私個人のごく大雑把な感想として，この国は保守的で，女性の役割も一般的には受動的だと思います。女性であるための不利な条件というのは，やはりついて回わるようですが，むしろ女性をかくれみのに社会に甘えている，自分に厳しくないために不成功に終わる例が，ここでも多いと思います。

日本ほど全体の均一化が進んでいないこの国の真の姿は，なかなか外面だけではとらえにくいと思います。日本との比較も，例えばこういう事が新聞記事になる国だという情報として，私の日常の範囲でレポートしました。まずは第一便です。　（ウイーン発）

＜オーストリア 日刊紙 Kurier '85.4.1 婦人欄より＞

学術省の企画により，1875年から1981年までのオーストリアの大学で発表された女性をテーマとする博士論文の閲覧が可能になった。見出し語により随時検索が可能である。これらの博士論文は多岐のテーマにわたっている。今世紀初頭は伝記・歴史・哲学の分野が多く，ここ数年は心理学の分野での研究が多くなっている。

参考：オーストリアの大学はすべて国立。12の一般大学と5の芸術大学がある。

追伸：ヤンソン由実子著「国際結婚」は絶版とのこと。会員の方で譲って下さる方がありましたらよろしく。（編集室までご一報下さい。）

現在ウイメンズ ブックストアで扱っているミニコミ

（第14号発行後に入荷したもの）

5393　「WIFE 193—学校教育への疑問他」（'85.5）　450円

5394　「婦人通信 304—人間葬外と現代の貧困他」（'85.3）　250円

5395　「婦人通信 305—わが道をゆく他」（'85.4）250円

5396　「婦人通信 306—男の生理と性Ⅱ」（'85.5）250円

5397　「女から女たちへ No. 47」（'84.11）　200円

5398　「女から女たちへ No. 48」（'85.3）　200円

5399　「おんなの叛逆—特集　なくそう女性差別語，全国女性グループ，ミニコミ一覧」（'85.2）200円

5400　「とおく　3号—松山の女達の文集」（'84.12）　700円

5401　「We（新しい家庭科）4月—性をどう語る」（'85.4）　530円

5402　「女性空間—フランスの母性他」日仏女性資料センター（'84.12）450円

5403　「Still Waters Run Deep—英文和文対照で日常を描いたエッセイ」小川彩著('84.9) 1,100円

5404　「月刊あごら96号」〔5405〕「97号」　各350円

5406　「労大ハンドブック婦人月間85」（婦人労働問題の解説書）労働大学調査研究所（'85.3）　350円

5407　「あい No. 30—売春問題は人間の問題」（'85.3）　600円

5408　「それいゆ 3号—女性問題ブックリスト1,500冊他」女性問題懇話会刊（神戸）（'85.4）　1,500円

5409　「情報化する朝のテレビと主婦たち—ワイドショーの内容分析他」子どものテレビの会（'85.2）　1,500円

5410　「地軸 2号—家庭は解放区でありうるか他」地軸の会（東京）（'79.7）　500円

5411　「地軸 3号—職人盡絵の中の女性たち他」（'80.8）　500円

5412　「地軸 4号—からゆきさん研究と女性論他」（'81）　500円

5413　「地軸 5号—中国婦女覚え書他」（'82.12）500円

5414　「地軸 6号——今改めて民族意識を問う他」（'84.1）　500円

5415　「地軸 7号—沖縄に暮して他」（'85.1）　500円

5416　「性差の諸側面—医学生と神学生，牧師の性差意識の分析」科学的女性問題研究会（'85.5）500円

5417　「楽々亭創刊号—東洋医学と女性の体他」（'85.4）　450円

5418　「れ・ふあむ18—家族をめぐって他」（'85.2）　500円

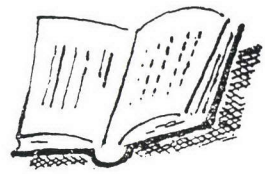
5419　「おんなとおとこの女性論—同志社大学宗教部 '84 公開講座：女性論の記録」（'85.4）　500円

5420　「ABORTION—アメリカにおける妊娠中絶のジレンマ」（14号 13 p. ご参照下さい）（'58.4）京都国際婦人クラブ　400円

5421　「だから私達は日本女性会議を批判したんです！」戦争を許さない女たちの集い＜日本女性会議 '84 なごや＞を疑う会（'58.4）　500円

5422　「FEMINIST FORUM No. 5—Feminism in Japan and the World」（'85.5）　250円

＝書　評＝



「女性が自由を選ぶとき」〔0085〕

ジゼール・アリミ 著
福　井　美津子 訳　　青　山　館

最近優生保護法を改正しようとする動きがあり，生命に関する医学・科学が日進月歩の勢いで発達するなかで，女性はますます自分の身体についての知識や，人権認識をもつ必要に迫られている。

本書は，フランスで1970年代前半に，妊娠中絶自由化運動のリーダーであった女性によって書かれたものである。自分が幼年時代から受けてきた女性差別の体験が生々しく書かれ，そして，その中から生まれてきた女性解放論や，自分の運動への取組みが語られている。

フランスは世界で最初に人権宣言を持ち，自由と平等の理想を掲げた国であるのに，女性に対しては何と差別的なのかと，全く驚き入ってしまった。とくに妊娠中絶についての記述――堕胎罪下においては，ヤミ堕胎が横行するが，それは男たちによる「拷問」のようであり，「中世的」，つまり，野蛮で危険きわまりないものであった――は，衝撃的で吐き気を催してくるほどである。

彼女はこのようなヤミ堕胎を２度体験し，その中で妊娠中絶の自由が必要なことを痛感していく。弁護士である自分が犯罪者でもあるという矛盾，自由でありたい自分が，自分自身のからだをコントロールできず，からだに裏切られて自由でありえなくなるという矛盾，に直面したからである。そこで，彼女は妊娠中絶の自由化運動にかかわっていくことになるが，この問題は，女性差別的な社会構造全体に連なる問題であるということが，本書の後半部分では論じられている。

わが国では，戦後，中絶が認められてきたことによって救われた女たちは多い。しかし，中絶の自由は，フランスのように女性たちの運動によって獲得されたものではなく，いわば「棚からぼたもち」的に，国策によって与えられる形をとった。

それゆえ，私たちは，今後「改悪」の動きを阻止するために，なぜ中絶の自由が重大な意味をもっているのか，そして，それが「生命尊重」と矛盾するものではないという点について，強力な理論的武器をもつ必要がある。

本書は，このような問題を考える一つの手がかりを与えてくれる。　（服部　範子）

‖原稿募集‖

上記の書評欄へ投稿をお待ちしています。

女性の目で見直した鋭い批評や，視点を変えたユニークなものをお寄せください。

400字詰原稿用紙に約１枚半，600字前後です。住所とお名前，電話番号も原稿用紙にお書き添えください。掲載させて頂いた方には薄々謝，進呈致します。

「あなたの情報・私の情報」。あなたの主張，伝えたいこと，知って欲しい本，御意見等に御利用ください。400字以内。住所とお名前，電話番号を原稿用紙にお忘れなく。但しこの欄は申しわけありませんが薄々謝も差し上げられませんので念のため。上記両方とも次号の締切は1985年７月末日。

宛先は　602 京都市上京区下立売通西洞院西入松香堂書店「ウイメンズ　ブックス係」です。

編集室から

◎特集目録世界の女性は，あらかじめ予想されたように，アメリカ・ヨーロッパに情報が集中しました。特にアフリカの女性たちの状況が捉えられなかったことが残念です。出版物にも南北問題にみられる格差がつきまといました。とはいえ，第三世界のことを紹介する女性ジャーナリスト・研究者も少しずつではありますが出てきています。今後に期待したいと思います。

◎次号（９月発行）は論争と題して，近代フェミニズム論争　主婦論争　家事労働論争　母性論争など女性問題の各論争の資料となる本を紹介したいと思います。

◎『ウイメンズブックストアが選ぶ家族に関する本――50冊』を「婦人公論」７月号に執筆。また既刊４月号に『ウイメンズブックストア奮闘記』が掲載されました。ご参考までに。

◎毎日新聞発行の「女のしんぶん」に毎号“松の香だより”をスタッフが執筆。会員の皆様からの情報，店頭模様をレポートしています。

◎会員の皆様からの暖かいご声援のおたよりをうれしく拝読。今後ともよろしくお願いいたします。スタッフ３名頑張っています。梅雨をさわやかにお過ごし下さい。８月のブックフェアをよろしく。　（木下）